

余暇ライフプラン大賞

入賞作品の紹介 1

「自分をつくり、都留をつくる学びのまちづくり推進事業」として、市民の皆さんから募集しました作品のうち、大賞一編、五部門の各部門賞五編を、四・五月号の二回にわたって掲載いたします。余暇を活用し、生きがいのある充実した生活を送るために、皆さんの役に立つことを期待しています。

なお、次回五月号は、芸術・文化・娯楽部門、コミュニティ活動部門、ファミリー部門の各部門賞の作品を掲載します。

また、入賞作品十六編を掲載した「余暇ライフプラン大賞入賞作品集」を、市立図書館・各地域コミュニティセンターに、常置いたしますので、どうぞ「自由に」ご覧ください。

問合先 社会教育課 生涯学習係

「生涯学習推進会議 生涯学習普及・啓発部会」

大賞

「しぼり出すもの」

関口 幸恵

「私にできるだろうか。大変なことになった。」私の一瞬のときどきを感じたのか、「できるか、できないか、何もしないうちに決めてしまうのは寂しいことよ。才能はしぼり出すものなのよ。」と年長の仲間が、いとも簡単に私の背中を押した。

詩を書く仲間で作っているサークル「都留詩友会」で、「詩画展」を企画したのは七年前になる。詩画展と言われても、皆目見当もつかなかった。自分の詩に絵を添えて、一つの作品にすることなど、

しい。楽しんで描いてみよう。もっといい作品を作りたい。」と、三年目になると欲が出てきた。いっそのこと絵を習おう。「怖いもの知らず」で、油絵の具の溶き方もキャンパスの号数も分からないまま、生涯学習の絵画教室に飛び込んだ。

それが今では詩と共に私の生きがいとなっている。絵を描いている時間は、他にない集中力で、ひたすら絵を描くことだけに熱中する。対象物をじっと見詰めているうちに、微妙な色あいや質感が見えてくる。「あなたらしい絵だ。人柄が出てくる。」誉めようもない私の絵を、当たりさりのない言葉で、講師の先生は上手に導いてくれる。絵が私らしいというのは、絵を描くことによって、解き放たれていくからだろう。自由になっ

ていくからだだろう。私自身が裸になって見えてくるのだと思う。油絵の具の強烈な臭いで、それと分かるのか帰宅した夫は、「おっ、今日は絵を描いてきたんだね。」と着替えもせずに、でき上がったばかりの絵を批評する。夫は写実的な絵が好きらしい。私はもう少し自由な絵の方が好きだ。長年連れ添った夫婦といえども、そこは譲れず、ああだ、こうだとひとしきり評論家気どりである。

「定年になったら絵を習う。」と夫は言う。水彩画をやりたいと言う夫と、スケッチ旅行へ行こうと約束をしている。海がいいか、

山がいいかと今まで旅した風景を思い出せば、今から楽しみにしている。

余暇は決して暇つぶしであってはいらない。前向きに人生を見詰めていくエネルギーであり、糧であると思っている。忙しい日々の生活の中で、自分をとり戻す大切な時間である。流れていくものか

部門賞(スポーツ・ゲーム・野外活動部門)

「フォークダンスは楽し」

富永 元恵

主婦業のかたわら、家業も手伝っている私の日常は、さながら何かに追いまわされているようで「席の暖まる暇も無い」せわしさの連続です。これは落ち着きのない私の性格も一因していると思います。

でも「こんな毎日をくり返しながらん年取ってゆくなんて何だかつまんなーい。」ふとそんな不満が頭を持ち上げてくるようになったのは、還暦を迎えた年のせいかも知れません。そんな時、「都留フォークダンス・サークル『舞夢』」のことを知ったのです。

「これだ!!」思い立ったが吉日とばかりに早速仲間に入れてもらったのは去年の夏のことです。一年経ち、ようやくダンス用語やステップにも慣れて、最近では先生の言われる動作もスムーズに表現できるようになりました。

私達のダンスを指導してくださるのは都留市体育指導委員の臼井

ら、奪い取るように詩を書きたい、絵を描きたい。そういう中に私を置きたいと思っている。

詩画展の作品を仕上げ、落款を押す。そして大きな充実感に浸る。私の才能はいくらしぼっても出ようはずがないが、押し出してくれた仲間の言葉が、いつも私の力になっている。

久氏と上条亜矢さんと、私とは親子ほど年のはなれている若いお二人です。

フォークダンスと言えば学校の運動会に踊った「オクラホマミキサー」ぐらいしか知らなかった私でしたが、わが国に「盆おどり」があるように、世界の国々には、その地域に根ざした民芸の伝統音楽や踊りがあり、その数の多いことに驚かされました。お国柄は異なっても、うれしいにつけ悲しいにつけ、皆が集まってその思いを分かちあい、それを音楽や踊りで表現したのがフォークダンスのルーツなのでしょうか。そんな気がします。

当初は持前の好奇心で始めたフォークダンスですが、水曜日の夜八時から十時までの二時間を踊り続けると、それほど過激な踊りではないのに全身汗びっしょりになるほどの運動量であることに今更ビッ